

イチゴ‘熊研い548’（商標名：ひのしづく）の休眠打破のための低温遭遇時間

○坂本豊房・田尻一裕・小野誠
（熊本農研セ）

【目的】

本県で育成した‘熊研い548’（商標名：ひのしづく）は、‘とよのか’と比較して厳寒期の矮化が軽度で、春先には、急激な株の立ち上がりが見られる。これらは、休眠生態が関与していると思われる。前報では、露地条件下では11月上旬以降に休眠に入り、11月中旬が休眠最深期であることを報告した。本報では、休眠打破のための低温遭遇時間について調査を行ったので報告する。

【材料および方法】

‘熊研い548’および‘とよのか’（対照品種）を供試し、10.5cmポットで育苗をした。2007年8月17日に園芸用プランターに肥効調節型被覆肥料を株当たりN3.8g施用し、定植した。その後、雨除け栽培した。

上記栽培条件下の株を用い、11月15日から0h、120h、240h、360h、480h、720hの低温遭遇時間〔温度4℃、日長8時間（蛍光灯照射：1,700ルクス）〕を与えた各株を、昼温25.0℃、夜温20.0℃、日長14時間の温室に移した。温室入庫0、15、30日後の新生完全展開第1葉の葉柄長、および草丈を調査した。試験規模は1区3株反復なしで行い、約15日間毎に葉数を5.0～5.5枚になるように摘葉し、花房は除去

した。

【結果および考察】

‘熊研い548’の入庫30日後の葉柄長を比較すると、低温処理0時間に比べ120時間以上の区では約5cmと長く、120時間から720時間区の差は小さく同程度であった（第1表）。

‘とよのか’では、低温遭遇時間が多くなるにつれ、葉柄長は長くなる傾向がみられた。480時間区の葉柄長は約24cmとなり、480時間から720時間区の差は小さく、同程度であった。

‘熊研い548’の入庫30日後の草丈も、葉柄長と同様の傾向を示し、それ以後も同様の傾向を示した（第2表、第1図）。

このことから、本試験条件下では、‘熊研い548’の休眠打破に要する5℃以下の遭遇時間は、120時間以下であると考えられた。また、‘とよのか’では、400～500時間以上の遭遇時間が必要であるとされており（農業技術体系とよのかの生理・生態と栽培技術）、‘熊研い548’は、‘とよのか’よりも休眠が浅く、少ない低温遭遇時間で休眠打破されることが明らかとなった。

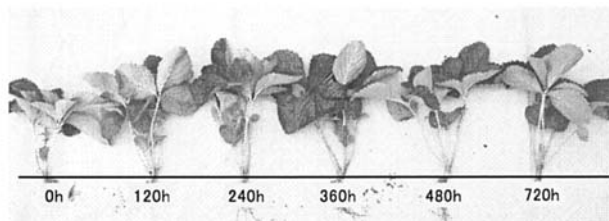
第1表 低温遭遇時間が葉柄長に及ぼす影響

試験区 (処理時間)	葉柄長 (cm) ²		
	0日後	15日後	30日後
‘熊研い548’			
0h	4.5	13.8	18.7
120h	5.3	15.3	24.7
240h	4.6	17.6	25.0
360h	4.6	16.4	25.5
480h	4.7	16.8	26.0
720h	4.7	19.0	25.1
‘とよのか’			
0h	3.2	10.4	16.2
120h	3.4	9.7	17.7
240h	2.3	11.2	18.7
360h	2.6	13.2	22.1
480h	2.6	13.8	23.7
720h	2.0	17.8	23.8

²新生完全展開第一葉の葉柄長

第2表 低温遭遇時間が草丈に及ぼす影響

試験区 (処理時間)	草丈 (cm)		
	0日後	15日後	30日後
‘熊研い548’			
0h	23.1	30.4	38.6
120h	24.2	34.0	46.0
240h	25.7	34.4	46.8
360h	25.6	31.2	44.3
480h	25.6	34.1	46.4
720h	25.9	36.2	48.5



第1図 低温遭遇時間が草丈に及ぼす影響

撮影日：平成20年4月4日（入庫111～141日後）